

熊本県博物館ネットワークセンター中期計画

2019 年度～2023 年度

2019 年 3 月

熊本県博物館ネットワークセンター

熊本県博物館ネットワークセンター中期計画の策定について

1 経緯

本県は、その宝とも言うべき、自然、歴史、文化を素材として、多くの県民の知的欲求に応えるため、県内の博物館等が連携することにより、県内どこに住んでいても博物館活動に参加・体験できる環境づくりを目指して、平成26年3月に「熊本県総合博物館ネットワーク構想」を策定しました。

この構想に基づき、県内の博物館等のネットワークを構築し、発展させるための組織として、平成27年4月に、それまで本県の自然や文化に関する資料を保管してきた松橋収蔵庫の機能を拡充し、「熊本県博物館ネットワークセンター」を設置しました。

当センターでは、オープニング記念行事として、県内にどのような博物館等があるのか県民に広く知っていただくことを目的とし、県内62館が共同で「再発見！くまもとの博物館」展を開催したほか、松橋収蔵庫時代から行われてきた企画展示や自然観察会、講座、体験学習等に加え、新たに県内の博物館等の収蔵資料を登録し、インターネットでの横断検索が可能なデータベースの立ち上げ、県内学芸員等の資質向上を目指した研修会の実施など、ネットワーク構築のための事業に取り組んできました。

平成28年4月の熊本地震では当センターも被災し、約1年間の休館、事業の休止や縮小を余儀なくされましたが、構想で将来的な課題として掲げていた資料レスキューネットワークについては、国、県、市町村、県内・県外の関係機関の強い連携のもと、レスキュー活動に取り組んでいく中で、新たなネットワークを構築していくということも経験しました。

当センターでは、これからも引き続き「熊本県総合博物館ネットワーク構想」の実現に向けて取り組んでまいります。これまでの活動実績を踏まえ、今後取り組むべき課題と活動目標を明確にするため、新たな中期計画を策定することとしました。

2 計画期間

平成31年(2019年)4月から2024年3月までの5年間

3 構想策定からこれまでの取り組みと課題(平成26年度から平成30年度)

[これまでの主な取り組み]

*取り組みの詳細は別紙のとおり

【サポート機能】

(1) 展示

① 県内博物館の収蔵資料の情報共有・相互活用や魅力ある共同企画展示

- ・平成27年度にオープニング企画展「再発見！くまもとの博物館」(62館参加)、平成28年度に天草地域で「未来につなぐ宝物」(天草地域の18館参加)を開催

② 海外の博物館と連携した企画展(オープニングイベントの開催)

- ・オープニング企画展においてロッキー博物館の紹介コーナーを設置

③ ネットワークセンター資料を活用した展示

- ・ネットワークセンター企画展を年間 5~6 回開催(平成 28 年度は熊本地震による被災により休館)、移動展示は県内の施設において合計 38 回(平成 26 年度~平成 30 年度)実施
- ・平成 30 年12月にリニューアルオープンした熊本博物館の常設展示に、県市政
策連携として県内全域の動植物を紹介する展示室(「熊本の生きもの」)を開設
- ・小中高校の生物、地学に関する学校移動展示用パッケージを製作(計 11 種 70
セット)

④ 県民が参画できる展示

- ・当センターでミュージアム・パートナーズ・クラブ* (以下、「MPC」とい
う。)の活動成果を取り入れた企画展を 7 回開催

*ミュージアム・パートナーズ・クラブ

自然や文化に対する理解を深めるため、展示、講座、自然観察会、調査研究など
の博物館活動に取り組む自主組織

(2) 学芸員による市町村等の支援

① 専属の職員がいない博物館等に対する支援

- ・平成27年度、「熊本県内学芸員等人材データベース」作成(平成30年情報更新)
- ・平成30年度、民俗分野の学芸員がいない市町村で民俗資料の台帳作成、展示
等を行うボランティアを養成する講座を開催

② 展示会等を企画する総合プロデューサーの育成

- ・「プロデューサー育成研修会」を年 2 回開催

(3) 調査研究機能・資料修復機能の強化

高度な機材を備えた調査研究環境及び文化財の資料修復センターの整備に向け
て、先進施設・県内博物館のニーズ調査等を実施し検討しましたが、整備コストが
非常に高額であり、機器の陳腐化が早いこと、また、県内施設のニーズが一致しな
いなどの理由により、当面は整備を見合わせました。

(4) 学習支援

① 出前講座、共催講座の開催

- ・熊本の自然文化に関する講座を年間 8～10 講座開催
- ・移動体験教室、講師派遣を年間 30～50 回程度実施
- ・自然観察会を年間 8～10 回程度開催

② ミュージアム・パートナーズ・クラブの設立支援、活動支援

- ・平成30年度末現在、8 団体が活動中

【ネットワーク機能】

(1) 情報・施設間のネットワーク

① 熊本県博物館資料統一データベースの構築及びポータルサイトの管理運営

- ・熊本県博物館資料データベースを平成 27 年度から運用開始(平成 30 年度末現在、21 館が参加、登録資料件数約 41 万件)

② 県立の博物館等施設との連携

- ・県庁関係課や施設を対象にネットワークセンターの事業説明及び情報交換会を年 1 回開催
- ・県博物館連絡協議会での活動説明や教員向け研修会「教員のための博物館の日」、子ども向け体験学習会「くまもとキッズミュージアム」などの県内博物館等との合同イベントを開催

③ 海外の博物館等とのネットワーク構築

- ・平成 26 年度、熊本県とモンタナ大学ロッキーマウンテン博物館で包括連携協定を締結
- ・平成 27 年度、熊本県内の自然史系博物館とモンタナ州内の自然史系博物館で熊本モンタナ自然科学博物館協会結成

(2) 研修・イベント等のネットワーク

① 学芸員の展示や資料保存に関する技術研修、意見交換会の開催

- ・県内の学芸員の技能向上のための「スキルアップ研修会」を年 3 回開催

② 体験学習、ワークショップなどの合同イベントの開催

- ・平成 30 年度、県内博物館等と合同で「教員のための博物館の日」、「くまもとキッズミュージアム」を開催

(3) 調査研究・運営管理等のネットワーク

① 共同研究の実施、紀要(調査研究報告書)の発行

- ・共同研究(1件)取組み中(熊本地震の影響で中断中)。
- ・紀要は平成30年度(2018年度)末現在、発行に向けて作業中

② 災害時の資料レスキュー活動ネットワークの構築

- ・熊本地震における文化財レスキューにおいて現地本部を務めるとともに、県博物館連絡協議会がレスキュー活動に参加することを主導

③ 県博物館連絡協議会のスキームの活用

- ・県博物館連絡協議会の組織を活用し、センターの事業説明、合同イベント開催の呼びかけ、情報発信等を実施

[取り組みの検証と課題]

(1) 海外の博物館との共同展示について

実施にあたって必要となる予算や人員体制の面から、交流事業のあり方について再検討する必要があります。

(2) 調査研究機器や資料修復施設の整備について

整備にあたって必要となる予算、人員体制及び県内各施設のニーズの現状を鑑み、専門施設との連携強化による資料調査・修復機能を確保していく必要があります。

(3) 学校の授業等での当センターの資料利活用について

学校移動展示用パッケージの一層の利活用に向け、認知度の向上を図る必要があります。

(4) 広報活動の展開について

当センター発足から4年が経過したが、当センターの活動に対する県民の認知度が低く、生涯学習施設として県民への一層の周知活動が必要です。

(5) 共同研究について

県内の8館で共同展示に向けた調査に取り組んでいましたが、熊本地震により多数の施設が被災し、復旧作業を優先する必要が生じたことから、活動が中断している状況です。

(6) 収蔵資料の整理と研究作業について

登録資料数の増加を目指し、重点的に登録作業を進めた結果、平成 26 年度末に登録数 239,617 点(登録率 37%)でしたが、平成 30 年度末には登録数 375,190 点(登録率 59%)となりました。

しかし、登録作業を優先したことで個々の資料に関する調査研究を十分に進めることができず、企画展示の質の向上という面で課題を残すことになりました。

今後は、登録作業と併せて調査研究にも計画的に取り組んでいく必要があります。

4 中期計画

博物館法において定義されているとおり、博物館は資料の収集保管、展示、普及教育、調査研究を目的として設置される機関です。

当センターは、本県の自然・文化の情報発信の拠点となり、後世にその資産を継承し、地域に根付いた活動を行う機関として、県民からの信頼と支援をいただけるよう努力してまいります。

児童や生徒には郷土愛を育てる学習の場として、社会人には日常生活での知的探求の場として、次世代育成のための学校教育活動と県民の生涯学習活動を支える施設としてその使命を果たしていきます。

限られた予算と人員の中で、これらの目的を果たすためには、前述した課題への対応と、教育現場との連携、公の場での普及啓発事業、そして情報発信を効果的に展開する必要があります。

つきましては、今回の中期計画の重点項目として、次の 4 つを掲げることとします。

(1) 重点項目

① 関係機関のネットワーク、協力体制の構築

- ・ 調査研究機能、資料修復機能を有する施設との連携・協力体制の構築

② 学校教育との連携強化

- ・ 授業での、当センターの資料や人材の活用、移動展示用パッケージの活用促進

③ 積極的な展示と広報活動の展開

- ・ 公的施設での移動展示の充実と積極的な広報活動の展開

④ 調査研究活動の強化

- ・ 県内博物館、大学、民間研究団体との共同研究
- ・ 紀要(調査研究報告書)等の発行
- ・ 収蔵資料に係る調査研究活動の強化

(2) 具体的な取り組み事項

1 サポート機能

展示、学芸員による市町村等の支援、学習支援及び調査研究などの博物館活動を県内一円で展開すると同時に、資料の相互活用などにより県内博物館等のサポートを実施します。

(1) 展示

① 博物館等の資料の相互活用による企画展示

当センターと県内博物館等が所蔵する資料を相互に活用できる環境を構築することで、各施設の企画展示の内容を充実させる取り組みを進めます。

当センターでは、収蔵資料の情報の共有化を図るため「熊本県博物館資料データベース」を運営しており、現在、県内 21 の博物館等の 41 万点を超える資料が登録されています。このデータベースを更に充実させることで、博物館等の企画展示の活性化を図ります。

項 目	H30(2018)年度の 実績	中期計画目標値 (2023 年度)
資料データベースの充実	21 施設 413, 233 点	24 施設 530, 000 点

② 民間活動団体と連携した展示

当センターを拠点としているMPCの活動成果や、県内の研究会等と連携した展示を行い、県民の幅広い調査研究活動を紹介します。

項 目	H30(2018)年度の 実績	中期計画目標値 (2023 年度)
民間団体と連携した展示	1 回/年	1 回/年

③ 公的施設での移動展示等、広報活動の展開 【重点項目】

当センターの企画展のうち、移動展示が可能なものについて一覧を作成し、県内公共施設や市町村等に展示を案内するとともに、ホームページや当センターが発行する広報誌に移動展示の情報を掲載します。

また、図書館や公民館などのロビーや廊下などの狭いスペースでも展示できる展示パッケージを製作し、県内どこでも博物館の実物資料に接することができる環境を整えます。

項目	H30(2018)年度の実績	中期計画目標値 (2023年度)
移動展示	5回/年	移動展示：5回/年 今後作成のパッケージ：20回/年

④ 熊本博物館に設置した縣市連携展示室「熊本の生きもの」の管理【新規】

常設展示である縣市連携展示室の展示資料を適切に管理し、情報更新や資料劣化を避けるため、必要に応じて資料の入れ替えを行います。また、県民活動紹介コーナー等で常に新しい情報が発信できるよう定期的に展示を更新します。

(2) 学芸員による市町村等の支援

① 市町村、博物館等への協力・支援

市町村や博物館等で専門職員がいない分野の収蔵資料について、整理、登録等の助言や実務が行えるボランティアの養成をサポートします。

また、県内で博物館に関連する分野の調査研究等に携わる方々と、博物館や市町村等との連携に役立つよう、「熊本県内学芸員等人材データベース」の充実を図ります。

② 学芸員、担当職員の研修会、情報交換会の開催

学芸員や市町村の文化財担当者等に対し、資料保存、展示技術などの専門的知識や技能を習得するスキルアップ研修会や、人を引き付ける魅力的な博物館活動を企画、実践し、それを評価できる人材を育成するプロデューサー育成研修会を実施し、学芸員等の資質向上の支援に取り組みます。

また、日常の博物館活動に役立てるため情報交換会を開催し、学芸員等の相互交流を促進します。

項目	H30(2018)年度の実績	中期計画目標値 (2023年度)
プロデューサー研修会	2回/年	2回/年
スキルアップ研修会	3回/年	3回/年

(3) 調査研究機能・資料修復機能の強化 【重点項目】

熊本地震でのレスキュー活動を通じて醸成された、九州国立博物館をはじめとする国立文化財機構の各機関との連携や、九州山口ミュージアム連携事業等とともに推進している九州各県との連携を深め、調査研究機能、資料修復機能を有する施設との連携・協力体制を強化します。

(4) 学習支援

① 学校教育との連携強化 【重点項目】

当センターの資料の利活用促進や教員が博物館活動に参加できるよう、学校教育との連携を強化します。

平成 30 年度までに製作した学校移動展示用パッケージがより効果的に活用されるよう、当センターと現場で指導的な役割を果たす教員とが協議し、具体的な活用案を提示していきます。

また、学校教育の中で、博物館を身近な学習施設として利用してもらえよう、博物館と各教育研究会との連携を進めるとともに、日頃はあまり博物館活動に参加することができない教員に博物館の魅力を伝えるため、「教員のための博物館の日」を県内各地で開催します。

項 目	H30(2018)年度の 実績	中期計画目標値 (2023 年度)
学校移動展示用パッケージ 小中学校用 6 種類 高等学校用 5 種類 計 11 種類 70 セット	小中学校用 126 校/年 高等学校用 16 校/年	小中学校用 170 校/年 高等学校用 40 校/年
教員のための博物館の日	1 回/年	1 回/年

② 講座、体験学習会、ワークショップの開催

県民の生涯学習に役立てていただくため、県内の豊かな自然環境や歴史的な遺産を活用した講座や野外観察会を県内各地で開催します。

また、複数の博物館等の学芸員等が一つのテーマで交代で講師をつとめる講座や講演会を開催します。

さらに、博物館等が連携し、各館の特色を活かした体験学習やワークショップを一堂に集めた「くまもとキッズミュージアム」を県内各地で開催します。

項 目	H30(2018)年度の 実績	中期計画目標値 (2023 年度)
講座	7 講座/年	7 講座/年
移動体験教室・講師派遣	51 回/年	50 回/年
自然観察会	10 回/年	10 回/年
くまもとキッズミュージアム	1 回/年	1 回/年

③ ミュージアム・パートナーズ・クラブの支援

MPC自らが積極的に調査・研究を進め、情報発信ができるよう、支援を行います。

また、MPCとの共同調査・研究の成果を紀要としてまとめ、共同企画展などの形で発表できる機会を設けるなど、県民の博物館活動の充実を図ります。

さらに、県内博物館等のボランティアや友の会会員などのミュージアムサポーターの交流会を開催し、参加者の情報交換による活動の活性化を図ります。

項目	H30(2018)年度の実績	中期計画目標値(2023年度)
活動クラブ数	8団体	8団体
博物館ボランティア等の交流会	—	1回/年(新規)

④ 福祉・高齢者施設等における博物館の活用促進【新規】

県民の博物館活動と生涯学習の充実のため、これまで博物館を利用する機会が少なかった福祉・高齢者施設等に働きかけ、当センターで開催される企画展や講座等の情報を積極的に提供するなど、博物館活動に参画できる機会を高めていきます。

また、高齢者がより積極的に博物館活動に参加できるよう、高齢者向けワークショップの開発も進めていきます。

項目	H30(2018)年度の実績	中期計画目標値(2023年度)
高齢者向けワークショップの開発	—	5プログラム(新規)

2 ネットワーク機能

収蔵資料情報の共有化や学芸員の資質向上に関する研修会をはじめとする県内博物館及び市町村等のネットワーク構築を図ります。

また、県民がポータルサイトやイベント等を通じて、県民が県内のどこに住んでいても、博物館活動に主体的に参加できるような環境づくりに取り組みます。

(1) 情報・施設間のネットワーク

① 県内博物館等資料データベースの充実

県や博物館、市町村等で、各施設の収蔵資料情報を共有し、展示や調査研究のための活動が更に活性化するよう「熊本県博物館資料データベース」の説明会を定期的に行い、新規加入を促進し、データベースの充実を目指します。

また、当センターにおける未登録資料については、計画的な登録作業に取り組みます。

項目	H30(2018)年度の実績	中期計画目標値(2023年度)
データベース新規加入館(再掲)	21	24
ネットワークセンター収蔵資料の登録	20,200点/年	20,000点/年

② ポータルサイトの効果的な活用、情報発信 【重点項目】

当センターのポータルサイトの掲載内容を充実させ、情報発信力の強化を図ります。

また、県民の博物館活動への興味関心を高め、活用の利便性を向上させるために、県内博物館等の展示会やイベント情報を掲載した情報誌を発行します。

項目	H30(2018)年度の実績	中期計画目標値(2023年度)
情報誌の発行	—	2回/年(新規)

(2) 研修・イベント等のネットワーク

① 担当者研修会、意見交換会の開催

プロデューサー育成研修会やスキルアップ研修会を通して、博物館等や学芸員のネットワークを強化していくとともに、各博物館が連携・協力して事業展開

を図れるよう、各博物館の取組みの紹介や共同事業などについて調整する意見交換会を開催します。

項 目	H30(2018)年度の実績	中期計画目標値 (2023年度)
意見交換会	1回/年	1回/年

② 体験学習、ワークショップなどの合同イベントの開催

各施設と連携して、「教員のための博物館の日」や「くまもとキッズミュージアム」等の合同イベントを県内各地で開催します。

項 目	H30(2018)年度の実績	中期計画目標値 (2023年度)
教員のための博物館の日 (再掲)	1回/年	1回/年
くまもとキッズミュージアム (再掲)	1回/年	1回/年

(3) 調査研究・運営管理等のネットワーク

① 県内博物館、大学、民間研究団体との共同研究 【重点項目】

県内には、自然や文化に関する調査や研究を長く続けている民間団体が数多くあります。これらの団体や、県内博物館及び大学等の研究機関と協力し、共同研究を進めます。複数の機関が連携することにより、多角的な研究が可能となります。

項 目	H30(2018)年度の実績	中期計画目標値 (2023年度)
共同研究	1件/年	2件/年

② 収蔵資料に係る調査研究活動の強化と紀要の発行 【重点項目】

当センターの収蔵資料について、より正確で質の高い企画展示や学習支援活動に活用できるよう、計画的な調査研究を進めます。

博物館や研究団体の中には、調査研究で得られた知見を発表する機会がないところもあります。

当センターでは、県内学芸員や博物館等で活動する県民が誰でも、調査研究の

成果を投稿、発表できる紀要を定期的に発行します。

項 目	H30(2018)年度の 実績	中期計画目標値 (2023年度)
紀要の発行	なし	1回/年

③ I P M (総合的病害虫管理)に基づく良好な資料保管対策【新規】

当センターが収蔵する資料の良好な保存環境を確保するため、細やかな温湿度管理と定期的な清掃を行います。また、毎月実施している害虫やカビの発生状況のチェックを強化し、そのデータを保存対策にフィードバックします。

さらに、県内各施設の I P M に対する意識と技術向上のため、I P M 関係の研修会を開催します。

項 目	H30(2018)年度の 実績	中期計画目標値 (2023年度)
病害虫の確認	1回/月	1回/月
研修会(スキルアップ研修会 の中で実施)	1回/年	1回/年

④ 災害時の被災資料レスキュー活動のネットワーク

熊本地震の際は、県教育委員会が中心となって取りまとめた被災文化財等の状況調査を基に、県教育委員会、熊本県博物館連絡協議会、熊本被災資料ネットワーク及び当センターが連携協力し、未指定動産文化財等の救援(レスキュー)を行いました。こうした経験を踏まえて、災害時に迅速なレスキュー活動が展開できるよう県教育委員会と協力して県、市町村及び県民が一体となったレスキューネットワークの構築を目指します。

なお、日々劣化していく被災資料に迅速かつ適切な処置を行うため、被災資料の応急処置等のレスキュー実務に関する研修会を開催し、レスキュー活動を担うことができる人材の育成を図ります。

項目	H30(2018)年度の 実績	中期計画目標値 (2023年度)
研修会(スキルアップ研修会 の中で実施)	1回/年	1回/年